BEAR BACKS

●女性にとっての永遠のテーマを綴った41人のエッセー集

美しく年をとりたい

秋山庄太郎編

美しく年をとりたい

★定価はカバーに入っています

芦の水図書館蔵書

〈検印省略〉

編者　秋山庄太郎
発行者　豊島　澂
印刷者　日本製版株式会社

乱丁・落丁は御取替いたします。

発行所　株式会社　光風社書店
東京都千代田区神田錦町三ノ一四
電話東京（二九一）〇二八番
振替東京8－12913番

S51.11.10
¥600

—ベアバックスについて—

ベアバックス——クマの表紙の本というのが、この本のシリーズの名まえです。

クマというと、一見いかつそうな感じがするかもしれません。しかし、あなたがかつて楽しんだ『金太郎』のお話以来、ずっとお馴染みの動物なはずです。

〃価値観の多様化〃ということがいわれるのと同時に、〃自然への回帰〃ということがいわれています。現在、私たちは、一人ひとりが享受しているはずの文明の、そのパラドクスのなかに巻き込まれてしまっているようです。

ベアバックスは、こうした現代に対して原初からの雄叫びを発し、現代がかかえている難問に対して、真正面からぶつかっていきます。また、そのために〃現実を蘇生させる蜜〃をあさり、蜂に追いかけられるような失敗を犯すかもしれません。しかし、何度もひるまずに、こうした挑戦を繰り返していきます。

こうした願いから、私たちはこのシリーズに、ベアバックス——クマの表紙の本という名をつけました。

どうか、こうした望みを達するためにもお気づきの点がありましたら、ご意見、ご批判をお寄せくださるようお願いいたします。

BEAR BACKS

●女性にとっての永遠のテーマを綴った41人のエッセー集

美しく年をとりたい

秋山庄太郎編

此为试读,需要完整PDF请访问: www.erton

まえがき

子どものころは誰しもが、妹のようだとか、姉さんのようだ、と、女性を憧れの対象として見るものだ。また、十代になれば、この時期は二十代にかけて、女性を異性として意識しはじめる最初でもあるが、綺麗な女性はみな美しく見え、片想いの対象となる。私の少年時代もそうだった。

ところが、青春期を過ぎ、戦後、写真家となった私は、女性を撮影するのが商売となった。そして、女性を見るにも写真家という職業的な眼で、その美しさを見るようになった。そのため、自分の好みによく合い、自分の表現意欲に答えてくれるような個性をもった女性を綺麗だと考えるようになった。若くて、好みも激しく、感受性も鋭敏な時期であったので、エキゾチックな、またフォトジェニックな、華やかな雰囲気をもった人を美人であるとみなした。

さて、私自身、だんだん年をとってくると、かつてみた美女の、その歳月を経た三十年後の姿を、何人か眼にすることがある。女性にとって年をとることは厳しいことであるが、年とともにしだいに魅力を加えてきた人や、老醜とまではいかないまでも、こんなになるものかと目

を疑うようになってしまった人にも出会ったりする。

すると、また、私の女性の美しさについての考えが変わってきた。二十代においては、自分の眼のまえにいる年相応の女性しか美人として見ることができなかった。そして、三十代においても、自分よりやや年下の人しか美人として見なかった。私が四十代のころもそうであったかもしれない。ところが、五十代となってはじめて、私自身、本当に自由に女性の美しさを見ることができるようになった、と思えるようになったのである。

それは、女性のそれぞれの年代による美しさを認めることができるようになったことであり、時とともにうつろいゆく女性の美しさが、今となって純粋にわかるようになってきた、ということだといえる。

仕事柄、よく他人に、「どんな女性が本当の美人なんですか」といったことを尋ねられることがある。そんなとき、私はこんな答え方をする。「可愛い子、日本的なしとやかな美しさをもった子。グラマラスな子と、いろんな美人がいるけれど、彼女たちは今は美人かもしれないけれど、はたして将来も美人であるか？　ということはわからないよ」と。

時とともに移っていく女性の美しさを一般的にいえば、十代の美しさは、親から受けた素材としての美しさであり、二十代は女としての開花した美しさ、三十代は、その人のもっている

教養や家庭をもち母となった美しさ、四十代はそうしたものがいっそう安定したところの美しさ、といったものとして語ることができるだろう。

しかし、現在美人であるといってもかまわない女性たちが、確実に年とともにその美しさに磨きをかけていくというかといえば、そうとはかぎらない。それは、生活をしていくうちに、その人の生きざまが顔に出てくるからである。だから、せっかく美しく生まれても、生活の基盤が悪かったり、虚栄に走ったりすると、どこか顔にいやしさが出てきたり、ケンが出てきたりする。そのため、美しい顔かたちを与えられて生まれてきた人でも、なかなかうまくいかない人が多いのである。こうしたわけで、「今は美人だけれど……」というように、妙に屈折した答え方をしてしまうのだ。

私は今、美しく年を積み重ねてきた人を写真に撮りたい、と考えている。現実の仕事としては、十代後半から、せいぜい二十代後半までの若い女性を相手にしており、着物のモデルに中年の女性を使うぐらいだが、自分の仕事として撮影をしているとき、「ああ、いい顔になったなぁ」と感じるは、じつに四十代、五十代を越えた女性たちだからである。

そういった人たちは、社会的にかならず何か仕事をもっている。小説家であったり、画家であったり、また、書道家であったりするわけだが、いい仕事を積み重ねてきて、なおかつ現在

も活躍している、その顔というものは、たとえ顔にシワができていても、背中がこごんでいても美しいものだ。その人たちの生き方が背にはりつめている。眼の輝きというものが違うし、話をしていてもひじょうに味わい深いものがある。そして、こういう人たちこそ本当の美人ではないか、と私は思うのである。

仮りに例としあげれば、八十歳を越えても日本画壇で第一線の活躍をされている小倉遊亀（おぐらゆき）さんの名をあげることができるであろう。写真を撮りながらも楽しく、本当にいい顔だなあと、その顔に惹きつけられる。徹底して自分の道を歩んできた人には、男女を問わず、その人の顔にその人生の深さや豊かさが表われてくるものなのだ。

顔かたちの問題は、天から授けられた偶然の所産であって、この世に生を受けた私たちにはどうしようもないことである。しかし、本当の美しさというものは、天から与えられたものだけでは決められないところがある。それは、その人の人生を渡っていく過程において、いかによりよい時を過ごしていくか、ということに左右される問題であるからではないのだろうか。

人の人生は、その人が生まれもった才能によっても変わってくる。誰しもが画家や小説家、音楽家にはなれない。しかし、たとえ平凡な社会人であったとしても、また家庭人であったにしても、何かを求めて努力することができるはずである。そして、現実に、その努力が実を結

此为试读，需要完整PDF请访问：www.erton

び、よい母となったり、よい妻となった人たちの顔を見ると、じつに美しく、気持ちのよいものである。人生を美しく生きるためには、その〝何か〟を見つけ出すことがいちばんの問題ではないのだろうか。もちろん、これは男女を問わない問題である。

本書には、現在各分野の第一線でご活躍中の女性の方々から原稿をお寄せ願った。その年齢もそれぞれが違う。さまざまな観点から美しく生きるための心構えといったものについて、ある人は照れながら、ある人は余裕をもって、それでいて、みな真面目にこの問題について語っていただいた。私はその文章を見て、古代ギリシア人がいった「時間は円い」という言葉を思い出した。そのため、本書の章立てを内容的に区切ることなく、一時から十二時まで分けるという構成をとることにしたのだが、それは過去と未来とを結ぶ現在という時の流れのなかを「いかに生きるか」というその姿勢こそ、本書のテーマに答えてくれる唯一の鍵ではないかと考えたからである。

昭和五十一年七月十五日

秋山庄太郎（あきやましょうたろう）

目次

まえがき……秋山庄太郎…5

第一章　おんなの一時……17

幸せの青い鳥は……歌手　石井　好子…19

ニューヨークで買った靴……画家　桂　ゆ　き…23

母さんばかしがみじめです……俳優　桃井かおり…28

第二章　女の二時……35

『ハロルドとモード』舞台……俳優　荒木　道子……37
常に動的な日常生活を……体育研究家　小野　清子……40
このごろ思うこと……俳優　風見　章子……45

第三章　オンナの三時……51

清々しい色気……インタヴュアー　松村満美子……53
遠い日のあの初舞台……歌手　小坂　恭子……57
若さを保つ処方箋……俳優　丹下キヨ子……60
わたしっていつまでも可愛い……スタイリスト　高橋　靖子……64

第四章　をんなの四時……69

ぐっと落ちついてみて……詩人　江間　章子……71
帽子はかぶりたい時に……インタヴュアー　下重　暁子……75
最高の愛……美容研究家　高賀富士子……81

第五章　おんなの五時……85

後ろ姿……俳優　丹阿弥谷津子……87
私の計画表……放送タレント　馬場こずえ……91
真の美しさとは？……作家　小山いと子……96

第六章　女の六時……99

強靱な優しさ……華道家　池坊　保子……101

女としての特権と義務……歌手　ロミ・山田……104
老醜の美……西洋占星術研究家　訪　星　珠……108
崇高な美しさ……DJ　高橋　基子……113

第七章　オンナの七時……119

年をひきうけること……詩人　吉原　幸子……121
夢を育てて……テレビタレント　石毛　恭子……125
若い時代の基礎作り……服飾研究家　田中　千代……130

第八章　をんなの八時……133

心のハリの源を……評論家　上坂　冬子……135

鏡を見つめる癖……テレビタレント　芥川麻実子……139
三人の老婦人……評論家　与謝野道子……143
小さいなりの幸福……歌手　わしづなつえ……149

第九章　おんなの九時……157

自然に歳月を着る……作詞家　山口　洋子……159
孤独の美しさ……評論家　三枝　和子……163
伝統と愛と……服飾研究家　大塚　末子……168

第十章　女の十時……171

磯馴れの松の美しさ……脚本家　水木　洋子……173

此为试读，需要完整PDF请访问：www.erton